MEIWA

アスファルトスプレヤ
ＡＳ１５０型
ＡＳ１５０Ｈ型
取扱説明書
パーツリスト

Ｃ０００１号機より適応

株式会社 明 和 製 作 所

※ご使用前に必ずお読み下さい。

※本書は大切に保管し、必要なときにすぐに見られる場所に保管して下さい。

２００８年１０月２日
初　　版
Book No. CSM081002

≪　ご　あ　い　さ　つ　≫

この度は、明和アスファルトスプレヤを、お買上いただきまして、まことにありがとうございます。

本機は厳しい検査を行って出荷しておりますが、取扱いを誤ったり、日頃の点検整備などを怠りますと、どんなすぐれた機械でも故障を起こし、時には、人身事故や重大な破損事故を招くことになります。

本書は安全で正しい運転操作や応急処置、及び点検・整備などの必要な事柄を説明しておりますので、必ずお読み下さい。また、取扱いを十分にご存じの方も、本機独自の機構や取扱いがございますので、もう一度お読み下さい。

エンジンに関することは、別冊のエンジン取扱説明書に記載しておりますので、ご使用の前に必ずお読み下さい。

なお、機種によっては、取扱いが異なる場合がございます。その場合はその都度、補足説明をしておりますので注意してお読み下さい。

≪ 整備とサービスについて ≫

ご使用中の故障やその他、ご不明な点、及びサービスに関するご用命は当社、またはお買上いただきました販売店に、お気軽にご相談下さい。

その際、製品名・機械型式・機械番号・エンジン名称とエンジン番号を併せてご連絡下さい。

なお、保証に関することは、保証証券に記載しておりますので、ご使用の前に必ずお読み下さい。

§ 目　　次 §

ごあいさつ
目　次
安全上の注意事項
(1) 警告及び絵文字について ····· P= S- 1
(2) 警告ラベル表示場所 ····· P= S- 2～ S- 4
(3) 安全にご使用いただく為に ····· P= S- 5～ S- 8
１.機械の概要 ····· P= 1- 1
２.主要諸元 ····· P= 2- 1
３.組立方法
(1)開梱時の荷姿 ····· P= 3- 1
(2)組立方法 ····· P= 3- 2
４.運搬・積降し
(1)スプレヤの積降し ····· P= 4- 1
(2)スプレヤの運搬 ····· P= 4- 1
５.始業点検
(1)燃　料 ····· P= 5- 1
(2)エンジンオイル ····· P= 5- 1
(3)オイルカップ ····· P= 5- 2
(4)オイル（洗浄油）ポット ····· P= 5- 2
(5)ボルト・ナットなどの緩み ····· P= 5- 3
(6)リリーフ弁 ····· P= 5- 3
６.散布作業の概要
(1)エンジン始動の前に ····· P= 6- 1
(2)エンジン始動 ····· P= 6- 1～ 6- 2
(3)散布開始 ····· P= 6- 3
(4)散布の一時停止 ····· P= 6- 3
(5)散布の中断（一時的なポンプ洗浄） ····· P= 6- 3～ 6- 4
(6)散布の終了（完全洗浄） ····· P= 6- 4
(7)エンジン停止 ····· P= 6- 4～ 6- 5
７.長期保管 ····· P= 7- 1
８.トラブルの処置
(1)エンジンの不具合 ····· P= 8- 1
(2)ポンプの不具合 ····· P= 8- 1～ 8- 2
(3)吸入の不具合 ····· P= 8- 2
(4)散布の不具合 ····· P= 8- 2
９.機械の点検・整備 ····· P= 9- 1
保証証券 ····· P=10- 1

安全上の注意事項

(1) 警告及び絵文字について

「安全にご使用いただくために」や、⚠ 危　険 ／ ⚠ 警　告 ／ ⚠ 注　意

重　要 の記号は、特に重要です。また、※印にも注意してお読み下さい。

本書の中で使用されている記号は、次の通りです。

警告記号	意　味
⚠ 危　険	回避されなかった場合、死亡、または重傷を招く切迫した危険な状態を示します。(警告ラベルは赤色で表示しています。)
⚠ 警　告	回避されなかった場合、死亡、または重傷を招く可能性がある危険な状態を示します。(警告ラベルは橙色で表示しています。)
⚠ 注　意	回避されなかった場合、軽傷、または中程度の障害の可能性がある危険な状態を示します。(警告ラベルは黄色で表示しています。)
重　要	回避されなかった場合、物損事故の可能性がある状態を示します。 特に注意を促したり、強調したい情報、又は手順や指示に従わないと、機器・装置が損傷するおそれがある状態を示します。
アドバイス	運転操作や点検整備などをするうえで、知っておいていただきたいことや、知っておくと便利なことを示します。

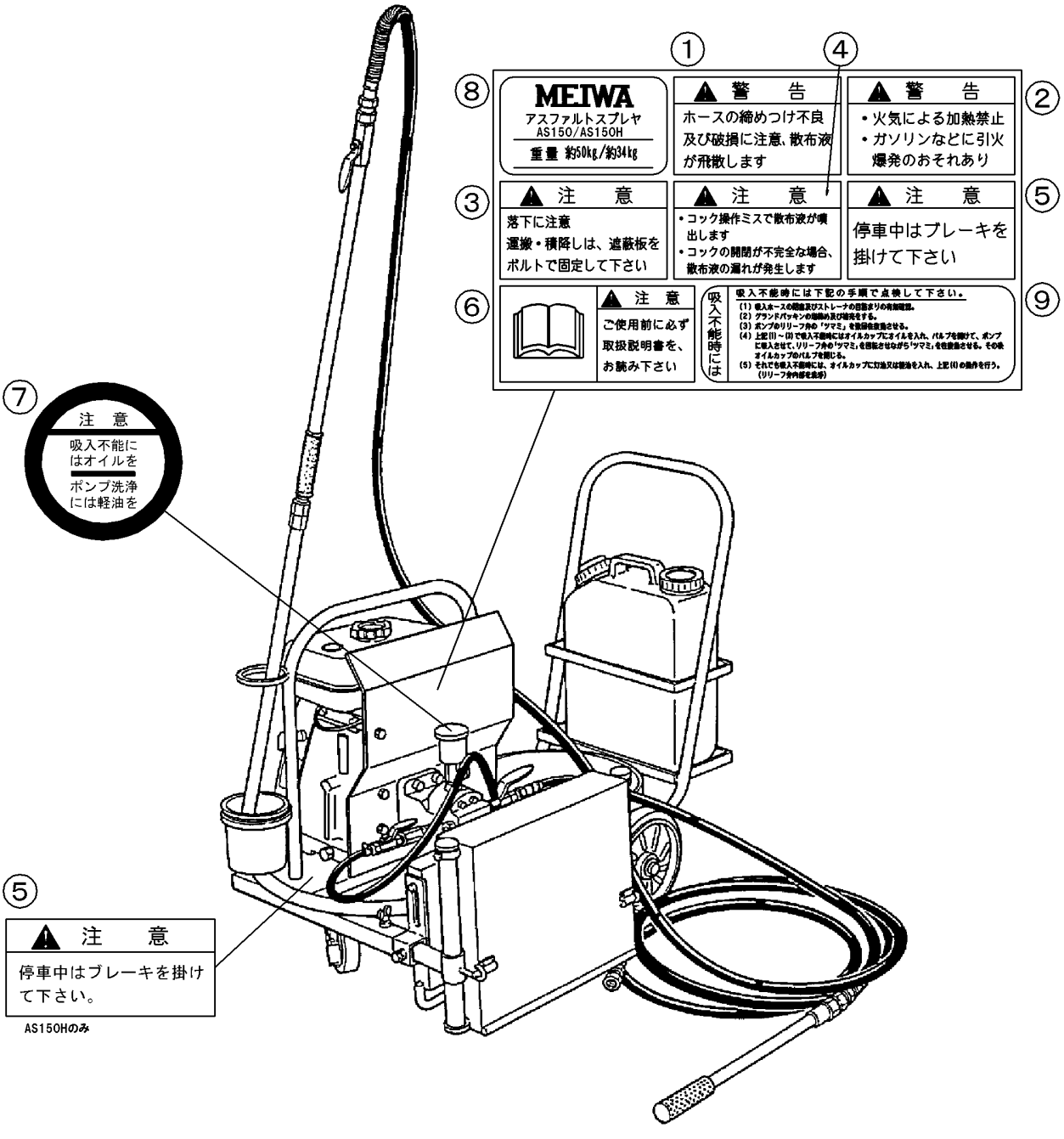
これらの警告記号がもつ意味をよく理解し、その指示内容に従って下さい。

(2) 警告ラベル表示場所

重　要	警告ラベルは、常に読める状態にして下さい。 警告ラベルを破損または紛失した場合は、新しいラベルを取り寄せて交換して下さい。交換する時は、同じものか確認して下さい。

a. 警告ラベル表示場所

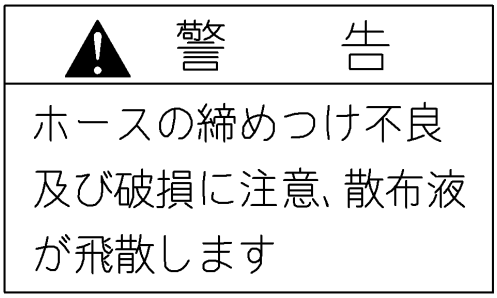
※赤：危険　橙：警告　黄：注意を示します。



b. 警告ラベルの詳細

①警告

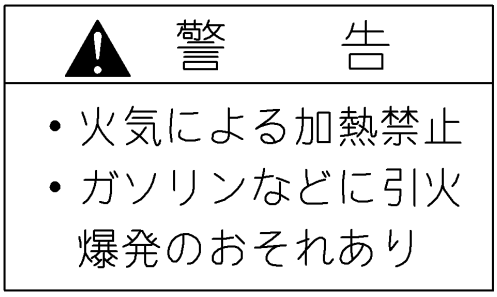
ホースの締めつけ不良及び破損に注意、散布液が飛散します



②警告

・火気による加熱禁止

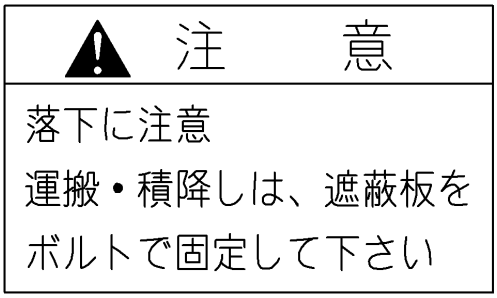
・ガソリンなどに引火、爆発のおそれあり



③注意

落下に注意

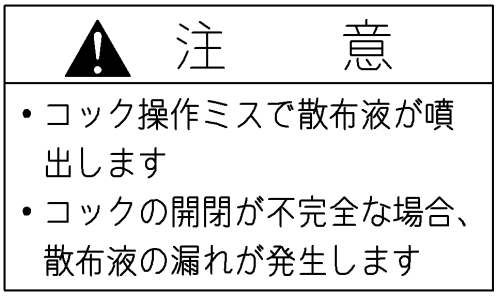
運搬・積降しは、遮蔽板をボルトで固定して下さい



④注意

・コック操作ミスで散布液が噴出します

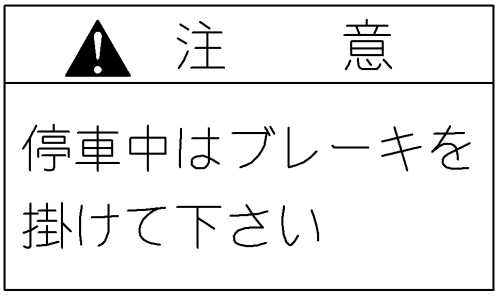
・コックの開閉が不完全な場合、散布液の漏れが発生します



⑤注意

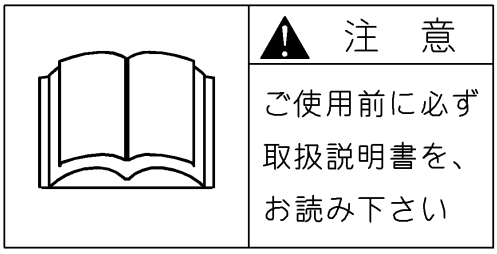
停車中はブレーキを掛けて下さい

（ＣＳＭ－１５Ｔ／ＴＪのみ）



⑥注意

ご使用前に必ず取扱説明書を、お読み下さい。



⑦注意

吸入不能にはオイルを

ポンプ洗浄には軽油を

⑧ＭＥＩＷＡ

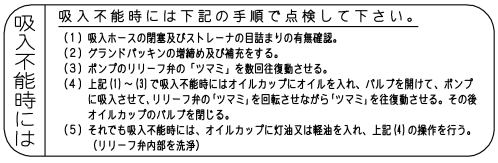
アスファルトスプレヤ

ＡＳ１５０/ＡＳ１５０Ｈ

重量 約５０kg/約３４kg

⑨吸入不能時には

吸入不能時には下記の手順で点検して下さい。



(1)吸入ホースの閉塞及びストレーナの目詰まりの有無確認。

(2)グランドパッキンの増締め及び補充をする。

(3)ポンプのリリーフ弁の「ツマミ」を数回往復動させる。

(4)上記(1)～(3)で吸入不能時にはオイルカップにオイルを入れ、バルブを開けて、ポンプに吸入させて、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら「ツマミ」を往復動させる。その後オイルカップのバルブを閉じる。

(5)それでも吸入不能時には、オイルカップに灯油又は軽油を入れ、上記(4)の操作を行う。
（リリーフ弁内部を洗浄）

(3) 安全にご使用いただく為に

a. 基本的な注意事項

⚠ 注　意	ご使用前に必ず取扱説明書を、お読み下さい。

■　取扱説明書を読む

運転員及びその他の関係者は、機械を運転及び点検する前に取扱説明書をよく読み熟知して下さい。

■　取扱い方法を説明する

本機を他人に貸したり、使わせる場合は、あらかじめ本書を読むように指導しましょう。
また、正しい取扱い方法をよく説明しましょう。

■　主たる用途のみに使用する

本機は、アスファルト乳剤（以下乳剤）を散布する機械です。
機械の用途を誤ると、重大な事故や破損事故を招くことになります。

■　担当者を決める

本機の運転操作は、よく訓練された作業員が使用しなくてはなりません。

■　作業内容の打ち合わせ

道路工事に携わる人は、安全についてどなたも高い関心を持っておられます。
作業の前には、その日の作業内容を確認し合い、作業段取りに沿った安全作業を心掛けて下さい。また、機械の安全操作と適正な維持管理で事故を未然に防ぐことができます。

■　安全の打ち合わせ

①工事現場には、安全のために責任と権限を与えられた人が必要です。
その人がどなたかを知り、連絡を取るようにして下さい。
②作業の前には安全の打ち合わせを行い、全ての合図・信号・標識などの意味を知るようにして下さい。
③工事現場では、交通ルールを守りましょう。

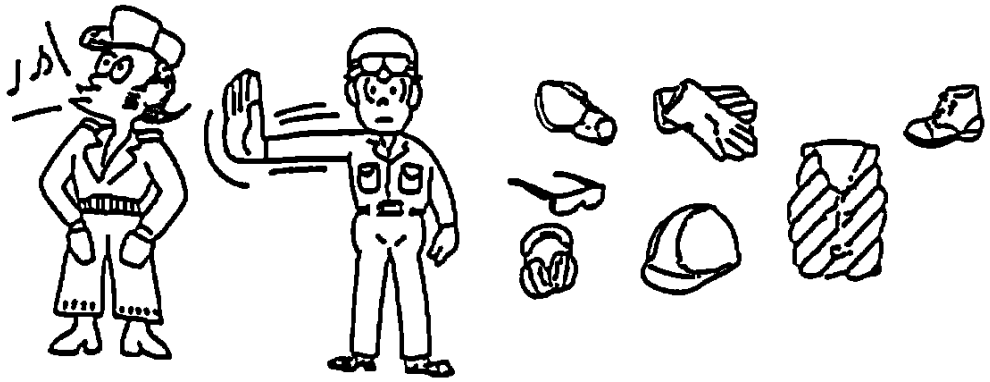
■　注意銘板をよく読む

機体各部に貼ってある注意銘板などには、人身事故予防のために特に重要な警告が記載されています。点検・整備する前には、注意銘板をよく読んでください。
なくなったり、読めないものがあれば、新しいものを貼り付けてください。

■ 保護具の着用

安全確保のため、保護帽や安全靴は必ず着用してください。

作業内容によっては保護メガネ、防塵マスク、防音保護具、保護手袋などを着用してください。



■ 警告絵文字やメッセージが全てではありません

本書の中で危険・警告・注意のお知らせをしていますが、安全の全てを網羅することは困難です。本書を理解して細心の注意をはらい、人身事故や機械の損傷などが発生しないよう、常に正しい操作と点検整備を心掛けましょう。

■ 万一の人身事故や、火災に備えて

消火器の保管場所と使用方法を事前に調べておいて下さい。

人身事故が発生した場合の連絡や処置の方法を事前に調べておいて下さい。

b. 運転時の注意

■ 機械の性能の限界を知る

本書では、主要諸元をお知らせしています。機械の性能の限界を知り、それを越えない正しい運転操作は、安全作業と機械を長持ちさせる秘訣です。

■ 運転前の注意

①エンジン始動前に、周囲に人がいないことを確認して下さい。

②エンジンが十分暖まってから作業を開始して下さい。

c. 作業時の注意

■ 作業範囲内立入禁止

作業前に作業範囲内に障害物や人がいないことを確認し、近づかせないで下さい。

作業現場内は立入禁止とし、作業者以外が立ち入らないよう措置を講じて下さい。

d. 点検・整備時の注意

■ 始業点検の励行

安全で効果的にお使いいただくために点検要領にそって必ず始業点検をしましょう。
また、音・臭・油漏れ・熱等普段と違う点に気付いたら、当社指定サービス工場で点検を受けましょう。

■ 整備不良機を使用しない

整備不良の機械を使うのは、絶対にやめましょう。人身事故や重大な破損事故を起こすおそれがあります。また作業中、本機に異常が生じたら、そのまま使用せず完全に故障箇所を修理しましょう。当社は、整備不良機の使用を直接監視、指導することは困難です。
本書を熟読され、あなた様自身で、安全で正しい運転操作を心掛けましょう。

■ 作業は平坦な場所で

①点検・整備作業は、固い地盤の平坦な場所で行ってください。
②エンジンを停止させ、キーを抜き取ってください。

■ 作業場所の整理・清掃

乱雑な作業場所で作業をすると、けがや転倒などの危険があります。
作業現場には作業に必要なもの以外は置かないでください。また、グリース、油脂、塗料類は取り除き、安全に作業できるように整理・清掃してください。

■ 引火性の油類を正しく管理する

本機では、ガソリン・灯油・軽油などの引火性の油類を使用しています。
使用上の注意をお守りいただき安全運転操作に努めましょう。

■ 火災の防止

整備時には、燃料など引火の危険のあるものを取扱います。次の注意を守ってください。
①火気の近くに可燃性の油脂を置かない。
②引火のおそれがある火気は消す。
③消火器などの消火用具を用意する。
④点検・整備中は禁煙。
⑤燃料、油脂などの点検には、防爆仕様の照明器具を使用する。
⑥可燃性の油脂が入っているパイプ、チューブおよびタンクなどを溶接したりガス切断をしない。

■ エンジンをかけた状態で整備をしない

プーリやベルトなど、動いている部品に触れると、挟まれたり巻き込まれたりして危険です。
本機を整備するときは、エンジンを停止してください。

■ エンジンを停止する

洗浄作業を除く他の清掃、給油、点検整備などの作業では、必ずエンジンを停止しましょう。
巻き込まれや引火などのおそれがあります。

■ 換気に注意

屋内や換気条件が悪い場所での整備時は、ガス中毒の危険があります。
とくにエンジンの排気ガス、燃料、洗浄油、塗料類には換気を十分行ってください。
屋内で整備や運転をするときは、適切な換気をしてください。排気管を屋外に延長させ、ドアや窓を開け外気が十分入るようにしてください。
必要に応じて換気扇を設置してください。

■ 廃棄物の処理

本機の廃棄物は有害物質を含んでおり、むやみに捨てると環境を汚染します。
本機から廃液を抜く場合は、地面にたれ流さないで容器に受けてください。

■ 改造・溶接の禁止

性能、安全、強度に影響する改造をメーカに無断で行うと、機体の破損、転倒などにより人身事故の原因となるおそれがあります。無断で本体を改造しないでください。
改造の必要な場合は、事前にメーカに相談してください。

■ 純正部品

点検・整備時に部品交換する時は、純正部品を使用してください。
純正部品以外を使用した時は、性能・安全の保証ができません。

１．機械の概要

・ミニアスファルトスプレヤＡＳシリーズは、小規模の乳剤散布用です。ガソリンエンジンを動力源とし、アスファルトポンプ（以下ポンプ）によって乳剤をフィルム状に散布します。
・ＡＳ１５０Ｈは、重量約３４kg の小型ハンディ式で、乳剤容器に吸入ホースを差し込んで散布します。容器への戻りホースはなく、ポンプにリリーフ弁を内蔵しています。
また、ポンプやホース洗浄用のオイルカップを備えています。
・ＡＳ１５０は、ＡＳ１５０Ｈを台車に装着し、移動の多い小規模散布用で、乳剤容器（一斗缶など）を積むことができます。ポンプやホース洗浄用の専用ポリ缶を備えています。

２．主要諸元

型式		ＡＳ１５０Ｈ	ＡＳ１５０
散布能力		約１５Ｌ/min	
散布圧力		約０．１ＭＰａ	
ノズル数		１	
ジョイント散布装置		なし	
重量		約３４kg	約５０kg
寸法	全長	５３０mm	１，０２０mm
	全幅	４７０mm	５２０mm
	全高	４６０mm	７５０mm
エンジン	名称	ＥＨ１２－２Ｂ	
	総排気量	１２１cc	
	連続定格出力	２．１KW/１，８００min^{-1}	
	使用燃料	自動車専用ガソリン（無鉛）	
	燃料消費率	３１０ｇ/KW･ｈ	
	燃料タンク容量	３．６Ｌ	
	始動方式	リコイルスタータ式	
アスファルトポンプ		ギヤ式	
リリーフ弁		直動形	
ポンプ洗浄		オイルカップ	
全体洗浄		なし	１０Ｌポリ容器
ホース：散布側×吸入側		５ｍ×２．５ｍ	
タイヤ		なし	前輪φ１００mm自在車輪・ 後輪φ２００mm

３．組立方法

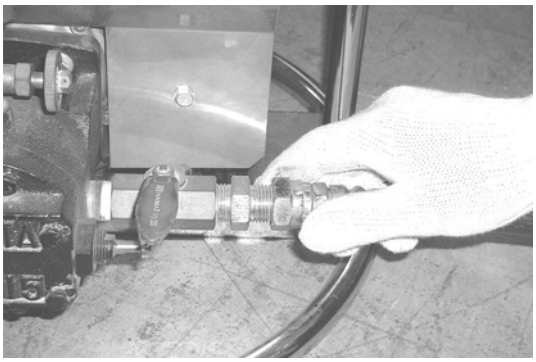
(1) 開梱時の荷姿（付属品）

	名　　称	数　量
１	本体取扱説明書・パーツリスト	１　部
２	エンジン取扱説明書（ボックススパナ付）	１　組
３	本体	一　式
４	吸入パイプ（ストレーナ付）	１　本
５	吸入ホース（２．５ｍ）	１　本
６	ノズル	１　ヶ
７	ハンドスプレバ（散布コック付）	１　本
８	ハンドスプレバ（エルボ付）	１　本
９	散布ホース（５ｍ）	１　本
１０	付属工具　モンキースパナ	１　ケ
１１	予備品　ポンプ用グランドパッキン（ピラーパッキン）	５　ケ

(2) 組立方法

①吸入パイプ、吸入ホース、ハンドスプレバ、散布ホースのダストキャップを外します。

②吸入パイプのホースアダプタに吸入ホースの取付金具（袋ナット）をねじ込み、モンキースパナで締め付けます。

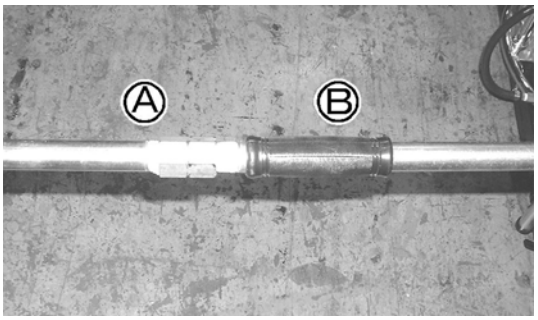


③この吸入ホース Ass'y をポンプの吸入側バルブ（３２）が取付けられている側のホースアダプタ（ポンプに向かって右側）にねじ込み、モンキースパナで締め付けます。

④ノズルをハンドスプレバのエルボにねじ込み、モンキースパナで締め付けます。

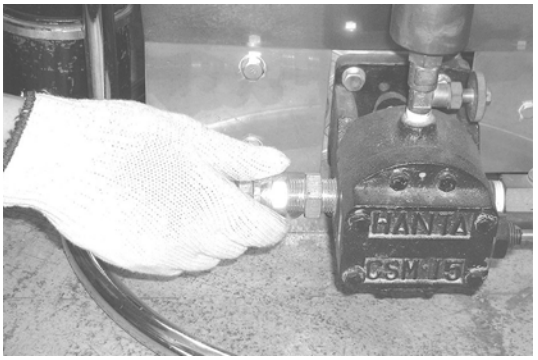
アドバイス	乳剤はノズル先端のスリットに沿ってフィルム状に散布するので、使い易い角度に調整して下さい。

⑤ハンドスプレバ（エルボ付）Ａをハンドスプレバ（散布コック付）Ｂにねじ込み、モンキースパナでソケットを締め付けます。



⑥ハンドスプレバのホースアダプタ（散布コック側）に散布ホースの取付金具（袋ナット）をねじ込み、モンキースパナで締め付けます。

⑦このハンドスプレバ Ass'y をポンプの吐出側ホースアダプタ（ポンプに向かって左側）にねじ込み、モンキースパナで締め付けます。



４．運搬・積降し

(1) スプレヤの積降し

⚠ 注　意	・本体を傾けないで下さい。オイルポットの軽油または灯油（以下洗浄油）がこぼれたり、乳剤容器が倒れるおそれがあります。 ・使用後は、エンジンの周囲は熱く、触れると火傷のおそれがあります。冷えてから積降しをして下さい。

(2) スプレヤの運搬

⚠ 注　意	・運搬時は、台車のブレーキをかけ、ロープで荷台に固定して下さい。トラックがブレーキをかけた時やカーブの時などに本機が移動し、落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。（ＡＳ１５０） ・運搬時は、燃料タンク・オイルカップなどの蓋がゆるんでないことを確認し、散布・吸入コックを閉じて下さい。こぼれたり、漏れて汚損や引火するおそれがあります。

５．始業点検

故障や事故を防止し、安全な作業をする為、日常（始業）点検・整備を実施して下さい。

※エンジンについての詳細は、別冊エンジン取扱説明書をご参照下さい。

⚠ 注　意	本機の点検作業は、取扱説明書をよく熟読し、よく訓練されたオペレータ又はサービスマンが行なって下さい。

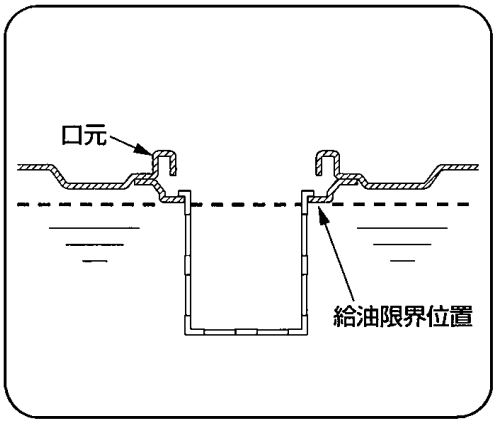
重　要	・点検作業は、危険のない平坦で堅固な場所で行って下さい。 ・エンジン始動の前に、燃料・オイルなどが適正な状態（量）にあるか点検して下さい。 ・機械の周囲を一回りし、損傷や漏れの有無を点検することも大切です。

(1) 燃　料

⚠ 警　告	給油中は必ずエンジンを止めて下さい。また、燃料やオイルなどがこぼれたらきれいに拭き取って下さい。エンジンスパークやマフラ、あるいはタバコの火などから引火するおそれがあります。

燃料コックを閉じてから、燃料タンクに自動車用レギュラーガソリン（無鉛）を給油します。

（燃料タンク容量：３．６Ｌ）



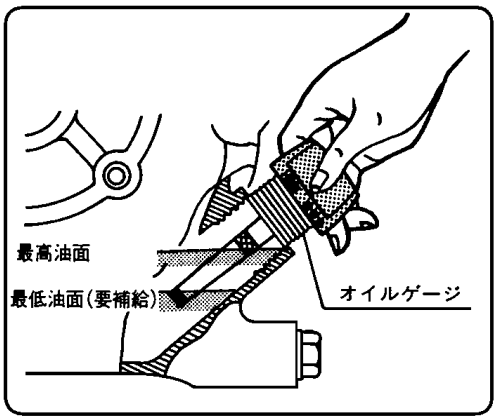
(2) エンジンオイル

給油プラグを外し、オイルゲージで油量を確認しエンジンオイルを給油します。

オイルは自動車用エンジンオイルで１０Ｗ－３０クラス以上を使用します。

ただし、寒冷地の場合は現地に適合した粘度・品質のものをご使用ください。

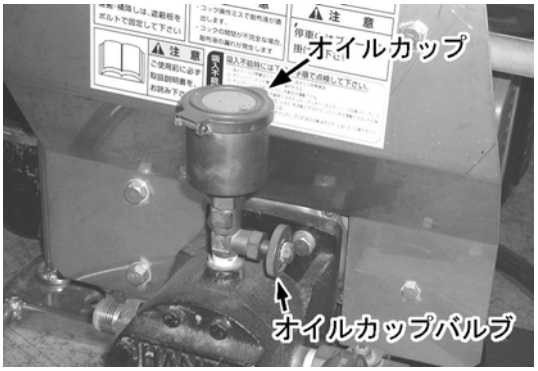
（クランクケース給油量：約０．６Ｌ）



(3) オイルカップ

⚠ 注　意	・オイルカップバルブは、本書記載の用途で使用する場合を除き、常に閉じておいて下さい。 ・エンジンやポンプの空運転（オイル不足の状態）は、適切な潤滑ができず、焼付トラブルを起こす原因になります。 ・オイルカップには、オイルを給油する場合と、洗浄油を給油する場合とがあります。本書の説明にそって行って下さい。 ・オイルや軽油などが多量に乳剤に混入すると、乳剤の品質を低下させるおそれがあります。

オイルカップバルブを開き、オイルカップにエンジンオイル又は洗浄油を給油します。
（カップ容量：約５０cc）

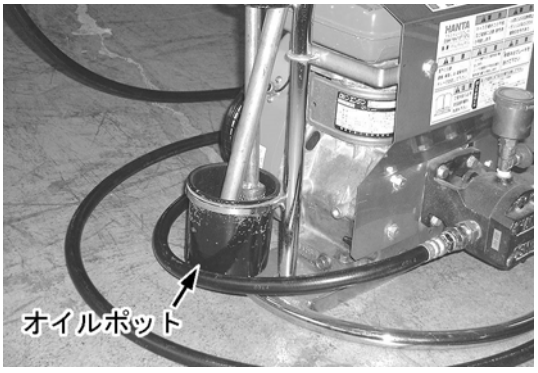


アドバイス	リコイルスタータハンドルを、ゆっくり引くと、ポンプ内のギヤが回転し、スムーズに給油することができます。

(4) オイル（洗浄油）ポット

アドバイス	オイルポットは、乳剤の垂れによる汚損防止に使用しますが、ストレーナやノズルの乳剤固着防止にも使用できます。

オイルポットに洗浄油を入れて、吸入パイプのストレーナ及びスプレバのノズルを差し込みます。（ポット容量：約３００cc）



(5) ボルト・ナットなどの緩み

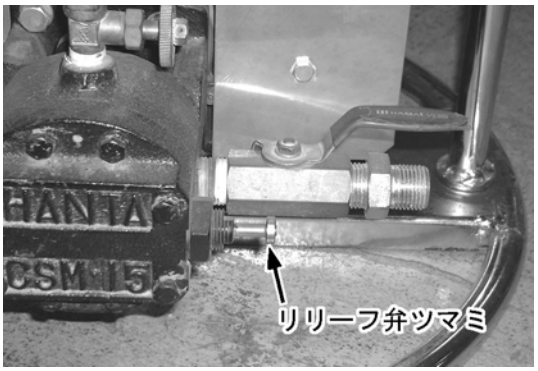
⚠ 注　意	・取付金具などに緩みやガタがあると、乳剤が漏れたり、ホースが抜けて乳剤が飛散するおそれがあります。 ・ホースは、純正もしくは推奨部品を使用して下さい。損傷により、乳剤が飛散するおそれがあります。

a. エンジンやポンプなどの各部締付ボルト・ナットが緩んでないかを確認し、必要に応じて増締めをします。

b. 燃料パイプや吸入・散布ホースなどの取付部が緩んだり、損傷していないかを確認し、損傷品は交換します。

(6) リリーフ弁

リリーフ弁のツマミを軽く引き、正常な状態（戻りがある）を確認して下さい。



アドバイス	リリーフ弁のゴミ詰まりには、ツマミを回転させながら数回往復動をします。

６．散布作業の概要

(1) エンジン始動の前に

⚠ 警　告	エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており危険です。 室内等、換気の悪い場所では使用しないで下さい。

⚠ 注　意	散布コックとオイルカップバルブを閉じていないと、エンジンを始動した時乳剤が噴射します。各コック・バルブが閉じているか確認して下さい。

a. オイルカップバルブを閉じて吸入コックを開き、散布コックを閉じます。

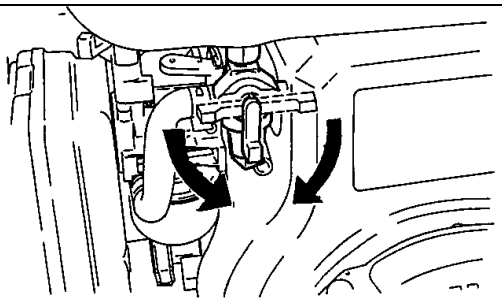
b. ストレーナ付吸入パイプを乳剤容器に差し込みます。

アドバイス	ドラム缶より吸入する時は、ストレーナ部をすぐ底につけず、徐々に上から下へ移動させると、砂や乳剤の分離による沈殿物がストレーナに詰まることなく、吸入不良の防止に有効です。

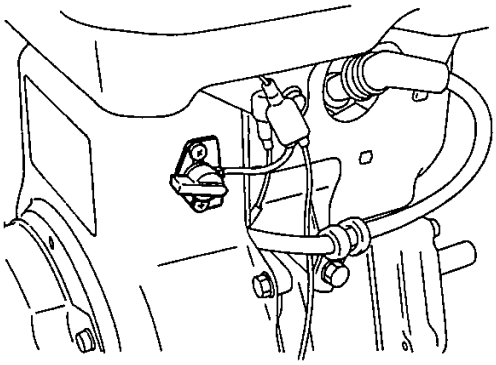
(2) エンジン始動

⚠ 注　意	エンジン運転中及びエンジン停止直後はマフラーに触れないで下さい。 火傷するおそれがあります。

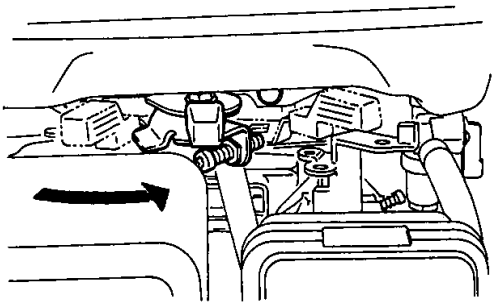
a. 燃料コックを開きます。



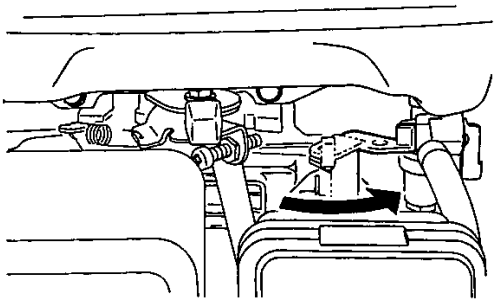
b. ストップスイッチを運転（ＯＮ）側にまわします。



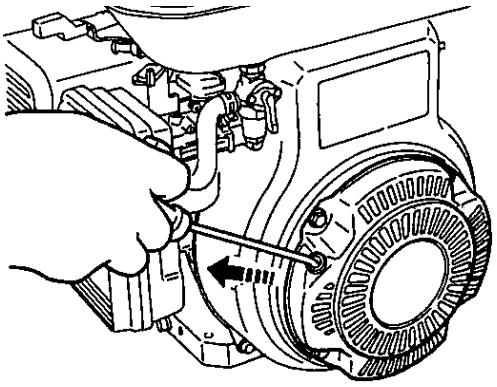
c. スピードコントロールレバーを低速「Ｌ」から高速「Ｈ」の方向に約１/３開いた位置にします。



d. チョークレバーを「閉」じます。
チョークの開度は
・寒い時やエンジンが冷えている時は全閉します。
・暖かい時や運転停止直後再始動する場合は全開もしくは半開にしてください。

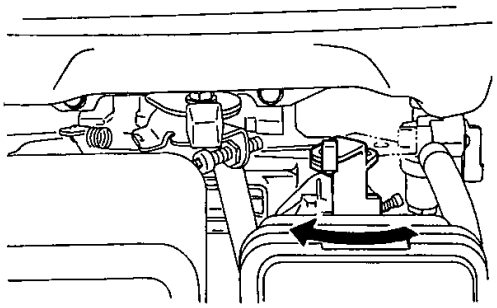


e. 始動ノブをゆっくり引いていくと重くなる所（圧縮点）があります。更に少し引くと一度軽くなる所があり、そこから始動ノブを一旦元に戻し、勢いよく引張ります。



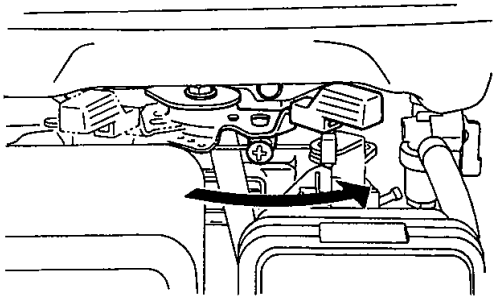
⚠ 注　意	リコイルのロープが摩耗してくると、切れたり、結び目が外れた拍子に手や肘を打つおそれがあります。周囲の状況をよく確認して下さい。

f. エンジンが始動したら、チョークレバーを開きます。
・チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず全開にして下さい。
・寒い時またはエンジンの冷えている時、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。ご注意ください。



アドバイス	エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分位低速「Ｌ」側で運転（暖機）します。

g. スピードコントロールレバーを徐々に高速「Ｈ」側に操作し、所要回転数（1,800min^{-1}）にセットします。
・作業を中断する時はその都度スピードコントロールレバーを低速（Ｌ）側に戻してください。燃料の節約のみならず、エンジンの寿命にも好影響を与えます。

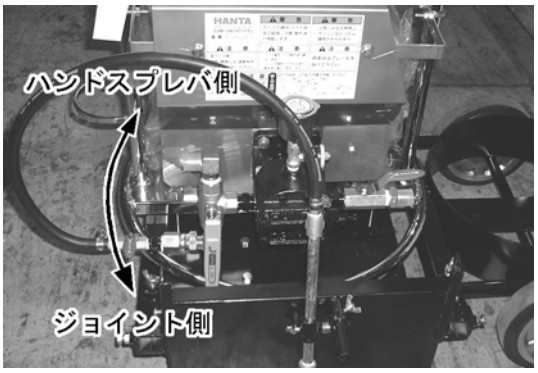


アドバイス	エンジンとポンプは直結しているので、エンジン始動で乳剤がポンプのリリーフ弁を介してポンプ内で循環します。

(3) 散布開始

⚠ 注　意	・散布コックは徐々に開いて下さい。急に開くと思わぬ勢いで乳剤がノズルから噴射することがあります。 ・作業中、散布ホースを引っ張らないで下さい。取付部の破損や本体の転倒などのおそれがあります。 ・傾斜地の散布作業や停止、中断などではブレーキを使用して下さい。転倒や逸走のおそれがあります。（ＡＳ１５０）

a. ポンプ左側の３方コックを、ハンドスプレバ側にします。
b. ハンドスプレバを持ち、散布態勢に入ります。
c. スプレバの散布コックを開いて、散布作業を行います。



(4) 散布の一時停止

⚠ 注　意	・高速回転「Ｈ」で散布コックを閉じると、リリーフ弁内のポペットやスプリングの「ヘタリ」が早くなり、寿命が極端に短くなります。 ・散布の一時停止は、最長２～３分までにして下さい。乳剤の分離でリリーフ弁内のポペットに乳剤異物を噛み込むことがあります。

アドバイス	散布コックを閉じると、乳剤はリリーフ弁を介してポンプ内で循環します。

a. スピードコントロールレバーを低速「Ｌ」にします。
b. 散布コックを閉じます。

(5) 散布の中断（一時的なポンプ洗浄）

⚠ 注　意	この空気洗浄は、乳剤を排出したらすぐ中止して下さい。ポンプは空運転の状態になっています。（焼つきのおそれがあります）

a. スピードコントロールレバーを低速「Ｌ」にします。
b. 吸入パイプを乳剤容器から抜いて、ストレーナから空気を吸入し、吸入・散布ホースとポンプ内の乳剤をすべて排出します。
c. エンジンを停止します。
d. オイルカップに洗浄油を給油します。
e. オイルカップバルブを開き、吸入コックを閉じ、散布コックを開きます。
f. リコイルスタータハンドル〈始動ノブ〉をゆっくり引いてポンプを回し、スプレバのノズルから洗浄油をオイルポットや別な容器に排出します。

g. この一時的なポンプ洗浄後は、吸入パイプのストレーナ部とスプレバのノズル部をオイルポットに差し込みます。

⚠ 注　意	ストレーナ部を地面に置くことはやめて下さい。土や砂を付着したまま吸入すると、ポンプが摩耗し寿命が極端に短くなります。

アドバイス	オイルポットに洗浄油が入っていると、ストレーナやノズルのアスファルト固着防止に有効です。

h. 再散布開始の時は、オイルカップを閉じて吸入コックを開き、散布コックを一旦閉じます。

(6) 散布の終了（完全洗浄）

⚠ 注　意	ストレーナやノズル、及びポンプやリリーフ弁のアスファルト固着防止のため、散布作業終了時には必ず完全洗浄をして下さい。

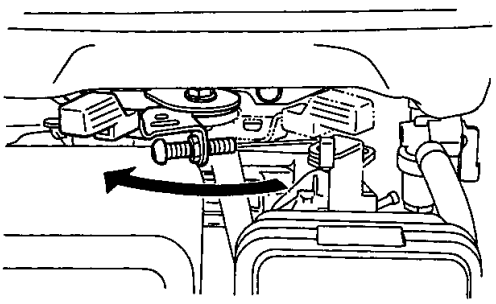
a. スピードコントロールレバーを低速「Ｌ」にします。
b. 吸入パイプを乳剤容器から抜いて、ストレーナから空気を吸入し、吸入・散布ホースとポンプ内の乳剤をすべて排出します。
c. 別の洗浄容器に洗浄油を約７～８Ｌ用意します。
（ＡＳ１５０は洗浄用ポリ缶、ＡＳ１５０Ｈは容器は別売りです。）
d. 吸入コックと散布コックを閉じ、この洗浄容器に吸入パイプのストレーナ部とスプレバのノズル部を差し込みます。
e. 吸入コックと散布コックを開き、吸入・散布ホースとポンプ内に洗浄油を通して循環洗浄します。

アドバイス	この循環洗浄は、約２～３分間行って下さい。

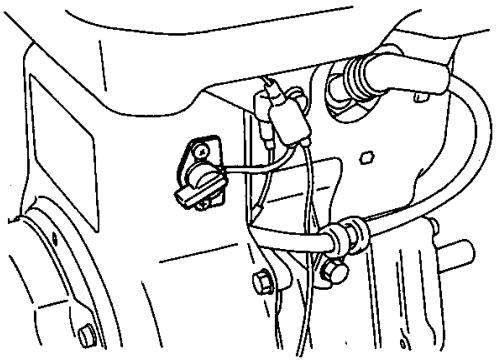
f. 吸入パイプのみをこの洗浄容器から抜いて、吸入・散布ホースとポンプから洗浄油を排出します。
g. エンジンを停止して、吸入パイプのストレーナ部とスプレバのノズル部をオイルポットに差し込んでおきます。

(7) エンジン停止

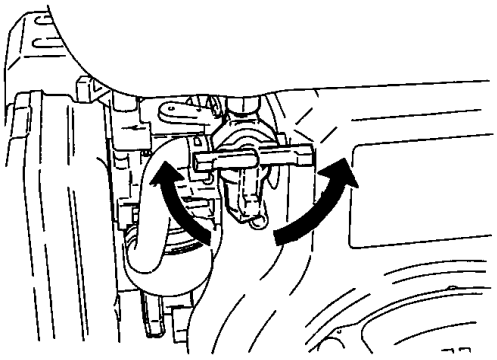
a. スピードコントロールレバーを低速「Ｌ」にし、１～２分位運転します。



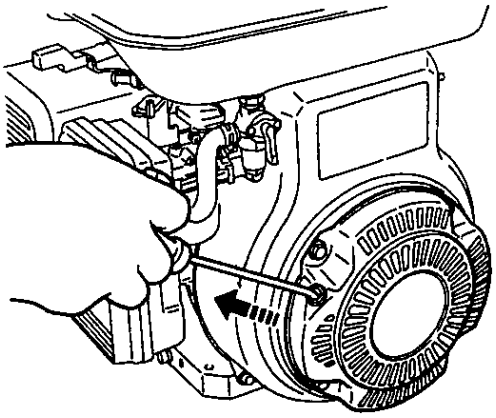
b. ストップスイッチを停止「ＯＦＦ」側にまわしてください。



c. 燃料コックを閉じます。



d. リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き、重くなった所で始動ノブを戻してください。
エンジン内部への外気（湿気）の浸込が防止できます。



７．長期保管

※エンジンについての詳細は、別冊エンジン取扱説明書をご参照下さい。

a. 燃料タンクのガソリン及びキャブレータ内のガソリンを抜き、空にします。

b. オイルカップバルブを開き、オイルカップにエンジンオイルを給油します。

アドバイス	ポンプ内の錆の発生や凍結防止に有効です。

c. オイルポットの内溶液や沈殿物を排出します。

８．トラブルの処置

アドバイス	異常や故障などの不具合が生じた場合は、ＭＥＩＷＡ指定サービス工場で点検・修理を行いましょう。（特に＊印の場合）

(1) エンジンの不具合

※別冊エンジン取扱説明書をご参照下さい。

(2) ポンプの不具合

a. ポンプ内でアスファルトが固着

⚠ 警　告	ポンプをバーナで加熱しないで下さい。ポンプに歪みが発生したり、ガソリン、軽油などに引火・爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意	ポンプをバーナで加熱しないで下さい。歪みを発生させたり、リリーフ弁内の「Ｏリング」を焼損し、ポンプが使用不能になります。

アドバイス	ポンプ内でアスファルトが固着すると、リコイルスタータハンドルが重くなったり、動かなくなりますが故障ではありません。

①オイルカップから洗浄油を給油します。

②＊完全に固結した場合は、ポンプを分解・洗浄します。

b. ポンプのオーバヒート（加過熱）

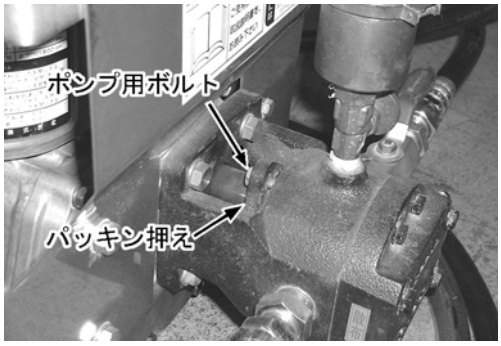
①ポンプの温度が下がってから、オイルカップからエンジンオイルを給油します。

②＊歪みや破損した場合は取替えます。

c. 油漏れ

①ポンプ用グランドパッキン（以下ピラーパッキン）の補充方法

(a)ポンプ用グランドパッキン押え（以下パッキン押え）を締めているポンプ用ボルトを２本外します。



(b)パッキン押えをポンプ本体から引き出します。

アドバイス	パッキン押えをポンプ用入力ギヤ軸に沿って移動させるだけです。 パッキン押えが抜け落ちることはありません。

(c)ポンプ用入力ギヤ軸にピラーパッキン１本を巻きつけます。

(d)パッキン押えでピラーパッキンをポンプ本体に押し込みます。

(e)ポンプ用ボルトを締め過ぎないように適度に締めます。

(f)エンジンを始動し、ポンプを約１～２分程度回転させた後、エンジンを停止し、ポンプ用ボルトの増し締めをします。

アドバイス	スプレヤの使用頻度や、補充期間によっては、エンジン始動後の増し締めの段階で、ピラーパッキンをもう１本追加補充する場合もあります。

(3) 吸入の不具合

a. ストレーナの目詰まり
ストレーナを洗浄油で洗浄します。

b. 吸入パイプ・ホースの目詰まり
吸入パイプ・ホースを洗浄油で洗浄します。

c. 吸入パイプ・ホース取付部のゆるみ
取付金具などを増締めします。

d. 吸入パイプ・ホースの破損
吸入パイプ・ホースを取り替えます。

e. ポンプの摩耗
①＊ポンプ本体とポンプ用カバーのクリアランスを調整します。
（カバーパッキンの厚さを０．１５～０．１０㎜に交換します。）
②＊調整不能の場合はポンプを取替えます。

e. ポンプ及びリリーフ弁の油膜不足
オイルカップからエンジンオイルを給油し、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら、数回往復動をし、最後にリリーフ弁の「ツマミ」を押え、一度吸入状態になれば「ツマミ」を戻します。

アドバイス	ストレーナ部を外し、継手金具に手のひらをあて正常であれば吸着します。

(4) 散布の不具合

a. 乳剤が高濃度（高粘度）
乳剤を散布適温まで加温します。

b. 乳剤の分離で沈殿物が多い。
乳剤を散布適温まで加温します。

c. リリーフ弁に乳剤異物が噛み込む。
①オイルカップから洗浄油を給油し、リリーフ弁の「ツマミ」を回転させながら、数回往復動をし、最後にリリーフ弁の「ツマミ」を押え、異物を取り除きます。
②＊リリーフ弁を分解・洗浄します。

アドバイス	リリーフ弁に異物が噛むと乳剤はポンプ内で循環し、散布圧力が著しく低下します。

d. ノズルの詰まり
ノズルを洗浄油で洗浄します。

e. 散布圧力の低下
上記、エンジン・ポンプ・吸入・散布の具合が悪いときの処置を行います。

９．機械の点検・整備

ミニアスファルトスプレヤを常に安全で効果的にお使いいただくために、次の点検表に従って点検整備を必ず実行して下さい。

運転時間 / 点検項目	（毎日）	200h 毎（毎月）	1000h 毎（半年）	2000h 毎（１年）	
エンジン	※別冊エンジン取扱説明書をご参照下さい。				
各部の清掃及び洗浄	○				
各部の締付及び損傷の有無	○				
ポンプオイル給油	○				
リリーフ弁の作動	○				
リコイルロープ	○				
ポンプ用ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊﾟｯｷﾝ(ﾋﾟﾗｰﾊﾟｯｷﾝ)の補充		○			
ポンプ用ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾊﾟｯｷﾝ(ﾋﾟﾗｰﾊﾟｯｷﾝ)の交換				○	
リリーフ弁　Ｏリング				○	

※取扱説明書を紛失した場合や、本体貼付ラベルの交換については、担当販売店にご相談下さい。

meiwa

株式会社 **明 和 製 作 所**

東京営業所 〒334-0063 川 口 市 東 本 郷 5 TEL(048)284-8883 FAX(048)282-0234
大阪営業所 〒536-0021 大阪市城東区諏訪3-2-20 TEL(06)6961-0747 FAX(06)6961-9303
名古屋営業所 〒454-0869 名古屋市中川区荒子1-32 TEL(052)361-5285 FAX(052)361-5257
福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑1-10-33 TEL(092)502-9100 FAX(092)502-9104
仙台営業所 〒984-0042 仙台市若林区大和町4-23-10 TEL(022)236-0235 FAX(022)236-0237
関越出張所 〒378-0122 群馬県沼田市白沢町生枝1480 TEL(0278)53-4075 FAX(0278)53-3807
川口工場 〒334-0063 川 口 市 東 本 郷 5 TEL(048)283-1611 FAX(048)282-0234
部品センター 〒334-0063 川 口 市 東 本 郷 5 TEL(048)280-5555 FAX(048)282-0330

http://www.meiwa-ltd.co.jp

※本機械を譲渡される時は、次の使用者の為に本書を機械に付けておいて下さい。
※機械の仕様変更により、本書の内容と実機が一致しない場合がありますので、
ご了承下さい。